

コロナ禍を乗り越えて！ 感染対策のため人数を縮小、池袋防災館で！

小規模防火実務講習・普通救命講習を2日間開催



例年開催してきた東京都支部主催の「小規模福祉施設防火実務・普通救命講習」は、新型コロナウイルス感染症のため開催が危ぶまれましたが、無事12月15、16日の両日実施。今回は40人の定員を半分以下の18名を定員として、会場は池袋駅近くの池袋防災館の休館日をお借りして開催しました。

二日間を通して普通救命34名、防火実務32名が受講、東京防災救急協会の講師陣から丁寧な指導を受けました。

小規模防火実務講習は、座学は3分の1程度の時間で、実際にGHの夜間に一人夜勤を想定、火災が発生した後の発生場所の確認、初期消火、入居者の避難、消防隊の受入れなどを、実戦さながらに交代で行います。

右の写真は、男性職員が夜勤者となって行っています。



普通救命講習は、通常ですと二人が組みを組んで「AEDを持ってくるところから行いますが、蜜を避けて一人の講習にしました。

これらの講習には、大島町のGHからも初めて参加するなど、都内全域からの参加がありました。

参加した方は、「実際の火災が起きた！という事で緊張しました。しかも実務をしっかり勉強するので参考になりました。講師の先生から声がかかり出ていますとほめられました」と語っていました。

小規模福祉施設防火実務講習は、全国でのGH火災の発生を受けて、東京消防庁、東京防災救急協会がGH協会東京都支部と協議し発足させた講習です。東京都支部は、この講習のカリキュラム作りに参加し、実技講習内容を作るために3回にわたって延100名の職員を動員して作り上げました。

また、講習の実践の中から、普通救命講習と同時に行うことを防災救急協会に提案、都内で初めて実現したものです。

東京都支部では、毎年の都知事要望書にこの講習への支援を要望すると共に、管理者研修などの制度研修に組み込むよう提案してきました。今後共、こうした要望を実現させるために、都内のGH関係者の皆様と協力して実現したいと考えています。

日本認知症グループホーム協会からのお知らせ

◎第22回日本認知症グループホーム全国大会(福岡県久留米市開催)は、新型コロナウイルス関連で1年延期し、今年11月10日(水)に開催する事となりました。開催は、現地とWeb(オンライン)による「ハイブリッド大会」といたします。